

2015年2月政情（内政・外交）

1 内政

（1）FAD 党の消滅

1月30日に選挙裁判所より発表された選挙プロセスの終了に伴い、同判事らは FAD 党（Frente Amplio por la Democracia：民主拡大戦線）が消滅した旨発表した。FAD 党は、2014年総選挙の中で、大統領選挙、国会議員選挙、市長選挙のいずれにおいても、政党存続の条件として選挙法で定められている4%の得票率を獲得出来なかった。マリベル・ゴルドン同副党首は、次回以降の選挙で同党の復活を目指すと述べた。

（2）大統領夫人の副大統領候補としての出馬にかかる違憲判決

12日、最高裁判所はマルタ・リナーレス前大統領夫人の副大統領候補としての立候補は違憲であったとする判決を発表した。現行憲法においては大統領の親族の副大統領就任は禁じられていることから、マルタ夫人の出馬に関しては当初より議論がなされており、2014年選挙当時は親族に配偶者は含まれないとの解釈に基づき選挙が行われたが、今般改めてこの親族という言葉には配偶者が含まれるとの判断がなされ、これを違憲とする判決が下された。

（3）モンカダ・ルナ最高裁判事

23日、月給が1万ドルであるのにも関わらず総額約174万ドルのマンション2件を購入し、不当利得、資金洗浄、公文書偽造、公務員職権濫用の4つの容疑で昨年10月より国会による調査の対象となっていたモンカダ・ルナ最高裁判事（停職中）が23日、本件検事を担当していたペドロ・ミゲル・ゴンサレス議員との間で、4つの容疑のうち不当利得及び公文書偽造の容疑を認め、懲役5年及び同期間の公職停止、マンション2件の押収を受ける事を取り決めた合意を行った（本件が裁判に持ち込まれ4つの容疑全てが認められた場合、「モ」判事に対しては懲役12年が課されるものと見込まれていた）。近日中に本件の判事を担当する議員3名により右合意を承認するかどうかを決定する審議が行われる予定。

（4）バジャリーノ元パナマ市長辞任の真相

26日、ボスコ・バジャリーノ元パナマ市長がブラジル人実業家アレクサンデル・ベントウーラ氏より賄賂を受け取っている2012年1月付の動画がインターネット上に流出し、同元市長がこれを認め、国民への謝罪を行った。同動画はパナマ市の公共事業を「ベ」氏の企業に受注するという条件の下、「バ」元市長が「ベ」氏より賄賂と思われる封筒を受け取る瞬間を収めたもので、「ベ」氏は当地ラ・プレッサ紙のインタビューにおいて、本件は「バ」市長を同動画を用いて脅迫し、辞職に追い込むためのマルティネリ大統領による罠であったと発言した（注：「バ」市長は任期途中であった2012年1月に健康問題を理由として自ら辞表を提出した。当時より、パナメニスタ党に所属する同市長を取り除くべくマルティネリ大統領が圧力をかけたのではないかとの憶測がなされていた）。

2 外交

(1) ウルタード元コロンビア大統領府治安局長のコロンビア警察への引き渡し

2014年に当国における亡命を取り消され、その後パナマ入国管理局より強制退去を命じられていたマリア・デル・ピラール・ウルタード元コロンビア大統領府治安局長は、自らの意思をもって1月31日にパナマ当局へ出頭、その後1日未明にトクメン国際空港にてコロンビア警察へ引き渡された。今後、コロンビア最高裁により「ウ」氏の盗聴疑惑にかかる裁判が行われる予定。

(2) 第8回米州教育大臣会合の開催

4～5日、当地で第8回米州教育大臣会合が開催された。同会合には米州26か国が参加し、米州首脳会議の議題案を策定するべく、教育者の養成や幼児教育といったテーマにつき話し合いが行われた。パレデス教育大臣は、教育に関する経験を各国が恒常的に共有していく場を創っていきたいと述べた上で、パナマは現在ボリビア、チリ、エクアドルといった国々の教育のあり方に関心を持っていると発言した。また、インカピエ外務次官はこの機会を利用し、第7回米州首脳会議の枠組みの中で、4月9～10日に米州35か国400の大学学長による「第1回米州大学学長フォーラム」を開催すると発表した。

(3) パナマの対イスラム国連合（有志連合）参加

5日、パナマ政府は外務省プレスリリースを通じ、パナマが対イスラム国連合（有志連合）に参加することを決定した旨発表した。パナマ政府は、平和を愛する国家としての立場を侵すことなく、テロリズムや暴力行為と戦っていくと表明しているものの、各方面からは本決定につき「イスラム国への宣戦布告に等しく、パナマ及びパナマ運河を危険に陥れかねないものである」として批判の声が上がっている。

(4) サイン・マロ副大統領兼外務大臣の SICA 外相・経済財政統合会合及び SICA 外相会合への出席

ア 12日、「サ」外務大臣は SICA 外相・経済財政統合会合に出席し、各国代表との間で関税手続きの統一、貿易促進、地域競争といったテーマにつき話し合いを行った（アローチャ貿易産業大臣同席）。

イ 13日、「サ」外務大臣は SICA 外相会合に出席し、各国外相との間で、中米地域の人身売買に関する地域的枠組みの設定を取り決めた基本合意書を作成した。

(5) バレーラ大統領のイタリア訪問

ア 14日、「バ」大統領はパナマ人司教ホセ・ルイス・ラクンサ氏ら20名の新枢機卿就任式に出席した。

イ 15日、「バ」大統領は法王フランシスコ及び20名の新枢機卿によるミサに出席した。

ウ 16日、「バ」大統領はレンツィ伊首相と会談を行い、経済、貿易、協力といった分野での取り組みにつき話し合いを行ったほか、伊企業フィンメッカニカ社とパナマ政府の間での訴訟案件に関し、本件解決を目指し、公式の対話を開始することを提案した。

エ 17日、「バ」大統領はフィンメッカニカ社訴訟担当弁護団との会合を行ったほか、ア
リタリア航空副社長、GUPC 構成企業取締役代表らとの間でもそれぞれ会談を行った。